

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざし、地域と共に歩み、地域に愛され信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、高い目的意識のもと自身の進路を実現し自立できる生徒を育成する。
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じ、感性豊かな人間性を持つ生徒を育成する。
- 3 地域との連携・交流を深め、社会に貢献できる多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。また、教員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。さらに ICT を活用した授業改善についても研究を進める。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度、授業理解度を、令和5年度にはそれぞれ83%(H30:70%, R1:67%, R2:77%)、88%以上(H30:77%, R1:80%, R2:83%)にする。

イ 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。

※生徒向け学校教育自己診断における授業集中度、家庭学習度を毎年2%以上引き上げ、令和5年度にはそれぞれ91%以上(H30:78%, R1:82%, R2:86%)、46%以上(H30:46%, R1:38%, R2:43%)にする。

(2) より高い進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。

ア 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、より高い進路目標の実現に向かって努力する生徒を育成する。

イ 個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。

※共通テスト受験者数を引き上げ、100名以上をめざす。(H30:58名, R1:58名, R2:94)

令和5年度までの3年間で、国公立大学3名(H30:1名, R1:1名, R2:0名)・難関私立大学20名以上(H30:18名, R1:14名, R2:20名)の合格(現浪合わせて)をめざす。

(3) 図書活動の推進により、将来への夢や志を育み自身の進路を探求させる。

ア あらゆる教育活動における読書活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。

イ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取組みを通じ、英語に慣れ親しみ英語検定や GTEC にチャレンジする意欲を持たせる。

ウ 国語科読書マラソンの取組みを復活し、読書好きの生徒を育てるとともに言語活動の充実を図る。

※図書館の年間貸し出し数6000冊以上をめざす。(H30:6903冊, R1:7878冊, R2:3790冊)

GTEC の受験者数を650名以上とする。(H30:未実施, R1:392名, R2:648名)

2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を充実させる。

ア 基本的な生活習慣の確立のうえに規範意識の高い自主性にあふれた生徒集団づくりをめざす。また、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができるよう教育相談体制の充実を図る。また、「いじめ対策委員会」を中心に、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度を毎年1%以上引き上げ令和5年度には74%以上(H30:68%, R1:68%, R2:71%)に、担任以外に気軽に相談できる先生の存在肯定率を毎年2%以上引き上げ令和5年度には55%以上(H30:46%, R1:46%, R2:49%)にする。また、人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率を95%以上(H30:89%, R1:90%, R2:94%)に引き上げ、継続をめざす。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度を92%以上(H30:88%, R1:89%, R2:90%)に、部活動満足度を毎年1%以上引き上げ、令和5年度91%以上(H30:84%, R1:82%, R2:88%)に、また部活動加入率を毎年2%引き上げ、令和5年度には76%以上(H30:65%, R1:65%, R2:70%)にする

イ ノークラブデーの徹底により働き方改革を推進する。

(3) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育、人権教育の充実を図る。

ア 高大・企業連携を盛り込んだ3年間のキャリアプランを確立させるとともに、地域や同窓会などの外部人材を積極的に活用し社会に貢献できる人材を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会の肯定率、進路情報満足度を毎年1%以上引き上げ令和5年度にはそれぞれ89%以上(H30:80%, R1:85%, R2:86%)、91%以上(H30:78%, R1:83%, R2:88%)にする。

イ 日ごろの教育活動を通じて、自尊感情を育て他者への思いやりにあふれる生徒を育成するとともに3年間を見通した人権教育計画に基づき、その充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会度を毎年1%以上引き上げ令和5年度にはそれぞれ、94%以上(H30:79%, R1:85%, R2:91%)、88%以上(H30:73%, R1:79%, R2:85%)にする。

3 地域連携・交流の確立と伸長

(1) 地域交流のさらなる拡大と深化を図り、社会に貢献できる生徒の育成に取り組むとともに外部への情報発信力をさらに強化する。

ア 支援学校、近隣の保育園、幼稚園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動を通じて、共生社会の担い手となる生徒を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりの多さ肯定率、近隣の学校との交流の多さ肯定率を令和5年度にはそれぞれ、37%以上(H30:37%, R1:33%, R2:31%)、32%以上(H30:29%, R1:27%, R2:26%)にする。

イ HP や学校説明会・中学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <p>○向学校性の高さは維持できている。</p> <p>○生活指導面の対応の納得度について、肯定率が下がった。 連絡事項の引継ぎミスをなくし、指導方針のより丁寧な説明を行うことで理解を得られるようにしたい。 今後は、教員間の共通認識を再確認し、個別に丁寧な指導を心がける。</p> <p>○家庭学習時間は微増しているが、学習習慣の定着を軸とした学校生活は安定していない。部活動加入率、アルバイトをしている割合ともに前年度並みだが、コロナ禍による休業や部活動休止で継続的指導が難しく途中退部者も散見され、学校生活全般への参加意欲の減退が見られる。</p> <p>○人権教育、進路や将来について考える機会となる講演会については、例年並みに実施できたが、コロナ禍による日程変更等が影響し、効果的な事前事後指導ができず、生徒にとっては考えを深める流れをつかめず、肯定率の低下につながった。</p> <p>○地域との交流についても、コロナ禍による交流自粛が広がり、定期的に行われていた交流は中断した。その中で映像や音声データの提供等、新しい取組みも始められた。</p> <p>【保護者】</p> <p>○学年の生徒指導方針について指摘があった。 コロナ禍による登校時間帯の遅刻欠席連絡が連日大量にあり、登校指導の担当者との連携がうまくいかないこともあった。 教職員の共通認識の下で、生徒を尊重し寄り添う姿勢を持ちつつ、連携して丁寧な指導を心がけ、指導方針の理解に努める。</p> <p>○コロナ禍で行事に参加できず、学校活動が見えにくくなっていた。 もっとホームページ等での発信を要望する意見が多かった。 ホームページ担当の首席が異動し、運用マニュアルも不明な状態であったので、日々の更新すらままならない状態であった。 現在、リニューアルを委託し、全面改訂作業中である。新年度までには新しくなる。</p>	<p>【第1回】 令和3年7月26日（月） 新型コロナウイルス感染症対策のため、書面開催 「令和3年度学校経営計画」に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学進学者数の増加は、学力向上や学問への探求心が伸びてきた成果とみられ、いい傾向にある。 ・新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、生徒が安心安全に学校生活を送れるよう尽力願う。 ・成果指標は、数値目標達成のみにこだわるのではなく、生徒にとっての実質的な効果検証により柔軟な対応を期待する。 ・地域とのつながりが山本高校の良さである。地域交流の機会をぜひ与えてあげてほしい。 <p>【第2回】 令和3年11月24日（水） 協議：「山本高校が地域から望まれていること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山本高校は、ふわっとした雰囲気のある憧れの学校である。人気の高さは数値化しにくいですが、今後は人気の根拠となる指標を積極的に示す必要がある。 ・卒業生とのつながりを大切に、その伝統を活かしてもらいたい。 ・保護者の「ここに来て良かった」が続いている学校であり、その思いをがっかりさせないよう学力保障を軸に改善をたゆまず続けてほしい。 ・進路結果だけではなく、数値化しにくい学校満足度を測る指標、例えば「進路決定満足度」のような指標を盛り込むのもいいのではないかと。 <p>【第3回】 令和4年2月16日（水）開催 協議：令和3年度学校経営評価、令和4年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携について、肯定率の低さが気になる。中学校との連携や、地元の同窓生のネットワークを活用したキャリア教育の機会等で、人とのつながりを大切にしていけば、認識が高まるのではないかと。 ・生徒を送る中学校側としては、3年後の進路実績が気になる場所である。中学校は、成果としての山本高校の実績をしっかりと示していただければ、もっと勤めることができる。 ・コロナ禍であるからこそ、委縮するのではなく、同窓生として元気のいい地域の未来を示してあげたいので、その機会を作っていただければ協力をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善への取組み	(1)	(1)	(1) ア. 生徒による授業アンケート結果より、習熟度別展開授業を実施している教科の進捗・難易度の肯定率 平均82.2% (△) 数学1年:67.7% 英語1年:88.2% 英語2年:90.7% 3科目の平均では、昨年度を上回ったが、数学については進捗の急激な速さに戸惑いが見られ、肯定率が大きく下がった。 感染症対策が長期化し、英語における対話や交互の発話のワーク等は工夫して行えた。
	ア 習熟度別・少人数展開 授業の充実	ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、「数学」(第1学年)、「英語」(第1学年・第2学年)の習熟度別・少人数展開授業の充実を図る。	ア・生徒による授業アンケート、授業進捗・難易度の肯定率86%[79%] 数学1年80%[77%] 英語1年90%[87%] 英語2年88%[85%]	イ. 授業公開週間における互見授業の機会と相互評価については、10年経験者研修の研究授業を中心に互見授業を行った。 学校教育自己診断(生徒用)結果より ・授業満足度:79.3% (○) ・授業理解度:82.1% (△) 昨年度並みの結果であった。 さらに向上をめざす。
	イ 公開授業・授業見学、授業アンケートを活用した授業改善の推進	イ・運営委員会、教務部が主体となり授業公開週間を定め(9月～11月)、グループによる相互授業見学・相互評価を実施する。 ・生徒による授業アンケート(年2回)結果による分析と課題把握を行い授業改善を進める。 (各教科へのフィードバック)	イ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度79%[77%] 授業理解度84%[83%]	ウ. 学校教育自己診断(生徒用)結果より、学習習慣の定着度をみる。 ・家庭学習時間1時間以上:50.3% (○) ・家庭学習習慣ゼロ:24.7% (○) ・アルバイトをしている:38.9%[R2:40%] かろうじて目標達成した。さらに家庭学習習慣の確立を図り、基礎学力の定着と生活習慣の安定をめざす。
ウ 成績中位者・成績不振者層の指導充実	ウ・各教科・学年が連携し宿題や予習・復習等の課題を設定することで家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。加えてアルバイトをしている生徒の状況を把握する。	ウ・生徒向け学校教育自己診断における家庭学習時間1時間以上の生徒50%以上[49%] 家庭学習習慣ゼロの生徒25%以下[26%]	(2) ア. 進路実現に向けた取組み ・「学力生活実態調査」より、ランクB以上:47.2% (△) ・共通テスト出願者:71名、受験者59名 (△) ・大学合格実績 国公立大学合格者:3名 (◎) 昨年実績を上回り、目標達成することができた。 関関同立合格者:18名 (△) 2年時よりコロナ禍による活動の自粛が続き、進路実現の意欲減退を取り戻せなかったことが目標を下回る結果となった。 進学講習については、進路指導部が集約して、各教科担当で行っていた進学講習を計画的に実施できた。	
(2) より高い進路実現への取組み	(2)	(2)	(2) ア・「学力生活実態調査」のBランク以上が全体の55%以上[53%] ・共通テスト受験者100名[94名] 国公立大合格者3名[0名] 関関同立合格者(現浪合計)20名以上[20名]	(3) ア. 読書活動の推進 貸し出し図書冊数:4154冊 昨年比109.6% (○) イ. 英語力の向上 Graded Readers:2236冊 昨年比118.5% (○) コロナ禍で図書館休館時期を乗り越え、回復。 GTEC受験者数:568名 (△) コロナ禍による受験意欲の減退を取り戻せなかったことと英語検定受験者が増えた。
ア 目標・能力に応じた進学講習体制の充実	ア・進路指導部、各教科、学年の組織的連携により進学講習(通常、夏期・冬期)の充実を図り大学進学希望者を2月・3月入試まで主体的に学習させる。 (3年生2月講習の実施)	ア・「学力生活実態調査」のBランク以上が全体の55%以上[53%] ・共通テスト受験者100名[94名] 国公立大合格者3名[0名] 関関同立合格者(現浪合計)20名以上[20名]	ウ. 読書マラソン復活、提出カード平均11冊 [R1:10冊、R2:未実施]	ウ. 読書を通じた言語活動の推進 提出カード5冊 (○) 昨年度コロナの影響で、未実施だった読書マラソンを再開できた。
(3) 図書活動の推進	(3)	(3)	(3) 貸出し図書数6000冊以上[3790冊]	
イ Graded Readersの活用による英語科Book Report取組みの推進	イ・Graded Readers蔵書数の充実を図り取組みをさらに充実させるとともに英語検定に積極的にチャレンジさせる。	イ・Graded Readers3500冊[1887冊] ・GTEC受験者数650名以上[648名]		
ウ 国語科読書マラソン取組み推進	ウ・国語科と図書館の連携をさらに深め、学習単元の補完・補強から新しい分野へ広がる読書活動を促す。	ウ・国語科と図書館の連携をさらに深め、学習単元の補完・補強から新しい分野へ広がる読書活動を促す。		

<p style="text-align: center;">2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成</p>	<p>(1) 規範意識の醸成と支援体制の充実 ア 個に応じた支援体制の充実と規範意識、自主性に富んだ生徒の育成</p> <p>(2) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上 ア 生徒会活動の活発化と学校行事等の充実 イ 部活動のさらなる活性化に向けた取組みの推進</p> <p>(3) 総合的なキャリア教育・人権教育の充実 ア 高大連携・企業連携を盛り込んだキャリアプランによるキャリア教育の充実 イ 外部人材の活用によるキャリア教育の実践 ウ 3年間を見通した人権教育の実践と充実</p>	<p>(1) ア・生徒の自主・自律を育む生徒指導体制を継続し、高校生活支援カードおよび府のSC事業との連携により個々の生徒を支援する教育相談体制の充実を図る。 (教育相談委員会の活用)</p> <p>イ・いじめの未然防止、早期発見・早期解決のため、教職員の情報共有を図るとともに、「いじめ対策委員会」を中心に組織的に対応する。</p> <p>ウ・全教員による登校指導を継続し、生徒の安全確保、遅刻者数の減少に努める。</p> <p>(2) ア・生徒会執行部、生徒各委員会の組織化を図り生徒会行事等を通じ生徒の自治意識を育てる。 イ・部活動体験入部期間の延長と複数化を図る。(春・秋の2回実施) ・近隣中学校との部活動交流を推進する。(技術指導・合同練習) ・ノークラブデーや全庁一斉退庁日など「働き方改革」の主旨を踏まえ、バランスのとれた部活動を推進する。</p> <p>(3) ア・キャリアプランに基づいた取組みを進め、適切な進路情報の発信により自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。 進路選択のため、生徒のニーズに応じた大学見学会(2年生/7月)を実施する。 イ・同窓会の協力のもと学年ごとに「先輩に学ぶ」企画を実施する。 ウ・人権教育計画やいじめ防止基本方針に基づき、人権教育委員会・教育相談委員会を中心に人権教育を計画・推進する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度 72%[71%] 気軽に相談できる担任以外の先生の実在肯定率 50%[49%] 教育相談委員会の月1回以上の開催 [14回] イ・生徒向け学校教育自己診断における人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率 91%[94%] いじめ対応における教員の真剣な対応肯定率 90%[88%] ウ・年間遅刻者数：708名以下[5%減] [746名]</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度 91%以上 [90%] イ・生徒向け学校教育自己診断における部活動満足度 88%[87%] 部活動加入率 71%[70%] ・ノークラブデー、全庁一斉退庁の徹底 下校指導当番の継続</p> <p>(3) ア・キャリアプランの策定 ・生徒向け学校教育自己診断における進路情報満足度 89%[88%] イ・生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会肯定率 87%[86%] ウ・生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度 92%[91%] 命の大切さを学ぶ機会度 86%[85%]</p>	<p>(1) ア・規範意識の醸成と支援体制の充実 学校教育自己診断(生徒用)より、 ・生活指導納得度：63.5% (△) ・気軽に相談できる担任以外の先生の実在：48.1% (△) コロナ禍で、休業や部活動禁止期間が断続的にあり、継続的な指導が困難な状況であった。 教育相談委員会の開催：13回 (○) イ・学校環境 学校教育自己診断(生徒用)より、 ・落ち着いた環境の肯定率：94.6% (○) ・いじめ対応における教員の真剣な対応：88.8% (△) 生徒にとって安心安全な学校の体制を維持できている。 ウ・年間遅刻者数：934回 前年比 125.2% (△) コロナ禍で、休業や部活動禁止期間が断続的にあり、継続的な指導が困難な状況であった。 (2) ア・学校教育自己診断(生徒)より、 ・学校行事満足度：91.1% (○) 向学校性の高さは維持できている。 イ・学校教育自己診断(生徒)より、 ・部活動満足度：62.2% (△) ・部活動加入率：70% (△) 部活動については、新入生への勧誘時期である4月当初よりコロナ禍による活動禁止期間が続き、入部するタイミングを逃したため、全般に活動が低調になってしまった。 週1回ノークラブデーの実施、毎週金曜日の一斉退庁、当番教員による下校指導は継続して実施できている。 (3) ア・学校教育自己診断より、 ・進路情報満足度：93.6% (◎) 進路指導部が主導して計画的に実施できたので、目標を大きく上回った。 イ・学校教育自己診断より、 ・進路や生き方を考える機会肯定率：88.5% (○) 同窓生による講演会を実施することができた。今後も有効な人的資源を活かしていく。 ウ・学校教育自己診断より、 ・人権の大切さを学ぶ機会：85.9% (△) ・命の大切さを学ぶ機会：80.7% (△) コロナ禍で、休業や部活動禁止期間が断続的にあり、継続的な指導が困難な状況であった。</p>
---	---	--	---	---

<p style="text-align: center;">3 地域連携・交流の確立と伸長</p>	<p>(1) 地域交流の拡大と深化による生徒育成の取組み</p> <p>ア 支援学校、近隣の保育園、幼稚園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動の促進</p> <p>イ 学校説明会、中学校訪問のさらなる充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒会、クラブ活動、授業などを通じた八尾支援学校、近隣の幼稚園、小・中学校との交流をさらに充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や諸施設との交流やボランティア活動への参加をさらに積極的に実施する。(地域の施設等での出張演奏等) ・それぞれの活動の一般生徒への広がりや広報(周知)による認識を高める。 <p>イ・本校のアドミッションポリシー(求める生徒像)が中学生、保護者に明確に伝わるよう中学訪問、学校説明会を通じて、積極的・効果的な情報発信に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活発なHP情報更新により効果的な情報発信に努める。(PTA連絡メールの活用) 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における近隣の学校との交流の多さ 肯定率 27%[26%]</p> <p>地域との関わりの多さ 肯定率 32%[31%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動成果の校内掲示等の実施 <p>イ・学校説明会 4回以上実施 参加者 1100名以上[1017名]</p> <p>中学校訪問 63校以上(広報用) [R1 ; 63校、R2 ; 10校]</p> <p>保護者向け学校教育自己診断におけるホームページは役立っている肯定率 80%[75%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア. 学校教育自己診断より、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の学校との交流の多さ： 23.6% (△) ・地域とのかかわりの多さ： 24.1% (△) <p>コロナ禍で、休業や部活動禁止期間が断続的にあり、継続的な指導が困難な状況であった。</p> <p>その中で、地域の中学校へ部活動紹介のチラシを配布したり、映像や音源を提供したり、数少ない合同練習の機会を持ったりすることで、地域交流を途切れさせない努力は継続できた。</p> <p>イ. 学校説明会の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間 5回実施 (○) (独自 4回、八尾市内 4校合同 1回) ・参加者数：1048名 (△) <p>コロナ禍で、休業や部活動禁止期間が断続的にあったが、目標回数を実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問：10校 (—) <p>コロナ禍で、相互の訪問を自粛する期間が長く続き、目標には到達せず。</p> <p>学校教育自己診断(保護者)より、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは役に立っている肯定率： 66.6% (△) <p>年度後半よりホームページの効果的な運用に向けて、改訂作業を委託して進めており、不明である運用マニュアルの策定と教職員への利用手順の研修を年度内に行う。</p>
--	--	--	--	---